

2021/6/26-2

オマケの英語教室

親父ギャグ? (“Low level” joke ?“Uncomfortable” joke?) 書庫版



早速突っ込まれました。前回の superman の記事。

思っていたとおりでした。

「superman じゃない」位の喩えなんて誰だって思いつく。そのくらいで偉そうな顔をするんじゃない」

と。

是は自分だけの考えかもしれませんが、そもそもそこがもう変な気がするのです。

現在の我が国に於いて「ギャグ」とか「ジョーク」と呼んでいいことになっているのは、つまりそう言うことが許されているのは「捻りにひねった、ある種諧謔的な二重三重のどんでん返し、裏読みの裏の又その裏」みたいなものでないと認められない。そう呼んではいけない、といった風潮があるような気がしております。

別に相手の国の民度を馬鹿にするつもりはありませんが、大方のアジア系の外国人さんには逆に我が国で受ける「ギャグ」や「ジョーク」の何処が一体「ギャグ」で「ジョーク」なのかさっぱりわからないようなのです。

「なんで笑っているの?何処が面白いの?説明して」

とまではいわれはしませんが、そのぼかんとしている表情を見ればそう言いたいのが直ぐに分かります。

当然そんな大変且つややこしい説明なんて英語力の足りない自分にはできっこ在りません。彼らが好むのはもっとストレートな笑いです。捻りのない素直なネタです。

そうしておかしかったら、何処でも大声出して、手を叩いて笑い転げる。

前回の記事は、実際にあったそのままの描写でした。

Superman の語を使った目的は当然「笑いを取る」事なんかでは全くなく

「こちらの意思を彼らに理解して貰う」という至上命題からでした。

(後の文章化段階で spiderman と batman を付加した時には、いささか笑いを取ろうとするスケベ心がありました)

英語でもそうですが、お笑いでも

「相当なレベルにならない限り一言も喋っちゃいけない、ギャグってはいけない」

と思い込んでいないでしょうか？

もしそうだとしたら

「一言も発しないまま、気がついたら墓場の一步手前」になっていてもおかしくはないでしょう。

題名では「親父ギャグ」を Low level joke 又は Uncomfortable joke と訳しましたが、

本当に訳したかったのは Natural and Straight joke で和訳は単に「ジョーク」だけです。

親父ギャグなどと言う言葉の存在そのものが、そもそも馬鹿げている気がしますし、世界から置いてきぼりにされる原因(ガラパゴス的心理要因)の様な気も致しております。

注記)

アジア系外国人さんには gag (ギャグ) といっても全然通じなかったので、此处では joke (ジョーク) と英訳させて載せております。